

年代	出来事
540	大伴金村が伽耶政策の失敗で失脚
552	蘇我稲目と物部尾輿が崇仏論争
554	百濟から医・易・曆博士などが来日。百濟の聖明王、新羅との戦いで敗死
562	伽耶滅亡し、新羅に併合
572	敏達天皇即位。大臣に蘇我馬子、大連に物部守屋が就任
585	物部守屋、塔・仏殿を焼き仏像を捨てて。敏達天皇没し、用明天皇即位
587	蘇我馬子、泊瀬部皇子(崇峻天皇)、厩戸皇子(聖徳太子)らと、物部守屋を滅ぼす。用明天皇没し、崇峻天皇即位
588	飛鳥寺(法興寺)建立
589	隋が中国を統一
592	蘇我馬子、東漢直駒に命じ、崇峻天皇を殺害。推古天皇即位
593	聖徳太子、摂政となる。四天王寺建立
594	仏法興隆の詔
596	飛鳥寺(法興寺)が完成
600	遣隋使
601	斑鳩宮を建立
602	百濟の僧観勒が来日、曆法や天文などを伝える
603	冠位十二階を定める。広隆寺建立
604	憲法十七条を定める
607	小野妹子らを遣隋使として派遣。法隆寺建立
608	小野妹子帰国。隋より裴世清が来日。小野妹子、高向玄理・僧旻・南淵請安らと同行し、再び隋に派遣
609	小野妹子ら帰国
610	高句麗僧曇徴、絵具や紙、墨などの製法を伝える
612	百濟人の味摩之が、呉の伎楽舞を伝える
614	犬上御田歙らを隋に派遣。蘇我馬子の病氣平癒のために、男女1000人を出家させる
615	犬上御田歙ら隋より帰国
618	隋滅亡。唐成立
620	聖徳太子・蘇我馬子らが『天

年代	出来事
	皇記』『国記』を編纂
622	聖徳太子、斑鳩宮にて49歳で没する
623	聖徳太子妃が「法隆寺金堂釈迦三尊像」をつくらせる
625	高句麗より志灌来日し、三論宗を伝える
626	蘇我馬子、没する。蘇我蝦夷、大臣となる
628	推古天皇、没する
629	舒明天皇、即位
630	犬上御田歙、恵日らを遣唐使として派遣
631	百濟の王子、豊璋、人質として来日
632	犬上御田歙、唐使高表仁や留学僧の受らと帰国
636	大旱魃で飢饉広がる
640	高向玄理、南淵請安らが唐から帰国
641	舒明天皇、没する
642	皇極天皇、即位。蘇我蝦夷の子、蘇我入鹿執政となる
643	蘇我入鹿、山背大兄王を襲撃し、一族滅亡、斑鳩宮焼失
645	乙巳の変。中大兄皇子・中臣鎌足ら、飛鳥板蓋宮で蘇我入鹿を暗殺、蘇我蝦夷自殺。蘇我氏滅亡の際、『天皇記』『国記』などが焼失。皇極天皇より譲位、孝徳天皇即位。中大兄皇子は皇太子、中臣鎌足は内臣となる。初めて大化と年号を定める(大化の改新)。鐘鐺の制。良賤の帰属を決める男女の法。大臣・大連の廃止、右大臣(蘇我石川麻呂)・左大臣(阿倍内麻呂)の設置。高向玄理・旻は国博士。仏教興隆の詔。古人大兄皇子を処刑。難波長柄寺礎宮に遷都
646	改新の詔(子代・屯倉、部曲・田荘の廃止。国司・郡司の設定。戸籍の作成。新租税)。薄葬令
647	淳足柵を越国に築く▶p11
648	磐舟柵を越国に築く▶p11
649	冠位を十九階に改める。八省百官の設置。右大臣の蘇我倉山田石川麻呂、謀反の

年代	出来事
652	疑いで自殺
653	戸籍を作成し、五十戸を里、五戸を保と定める
653	道昭、唐で玄奘に師事(法相宗)。旻、没する。中大兄皇子、孝徳天皇と不和、皇極上皇らと飛鳥河辺行宮に移る
654	高向玄理、没する。孝徳天皇、没する
655	皇極上皇、飛鳥板蓋宮にて再び即位(齊明天皇)
658	阿倍比羅夫、軍船で日本海側を北上し、蝦夷に進軍、服属させる。有馬皇子、処刑される
660	阿倍比羅夫、肅慎を討つ。

年代	出来事
	唐・新羅連合軍、百濟を滅ぼす。倭国、百濟の遺臣、鬼室福信らを支援。中大兄皇子、日本で最初の漏刻(水時計)をつくる
661	齊明天皇・中大兄皇子ら、百濟支援のため九州に向かう。齊明天皇、筑紫朝倉宮で没する。中大兄皇子、称制(即位せず政務)
662	人質で来日した百濟王子、豊璋が百濟にて鬼室福信と合流、王位につく
663	百濟再興をかけ、日本・百濟連合軍が唐・新羅連合軍と白村江で戦い、大敗▶下図

● 白村江の戦い(663年)



**井沢の解説 朝鮮半島への思い入れ**

「有史以来、日本が外国と完全な同盟関係を結び、同じ戦場で共に戦った事例は白村江の戦い(663年)しかない」。しかも、この戦いに敗れた後、日本は多数の百濟人を亡命者として受け入れている。彼等が日本の経済や文化に大きな影響を与えたのも間違いないところだ。その背景には天皇家と朝鮮半島の深い関係があったのだろう。しかし、百濟人が日本の政治に深く関与するようになったことは必ずしもプラスとは言えなかった。なぜなら、それは壬申の乱の原因ともなったからだ。